

天草で見つけた 「自分らしさ」の暮らし

旅行で来たとき、将来はこんなまちで暮らしたいと思っていました。自然豊かな場所で子育てがしたい。海の近くに住みたかった。

「ふるさと」と呼べる場所を子どもたちに残してあげたかった。

いま天草市にはさまざまな思いを抱き、住み慣れた土地を離れて移り住む人たちが増えています。

最近、よく耳にする言葉。それは「移住」。

移住者の皆さんはどんな思いで全国にあるたくさんの方のまちの中から、このまちを選んで移り住んできたのでしょうか。

移住した皆さんの暮らしから、私たちが気づかない天草の魅力が見えてくるかもしれません。

天草市は、歴史や文化、観光資源に恵まれています。出生数の減少や就学・就職等による転出などで人口減少に歯止めがかからない状況が続いています。

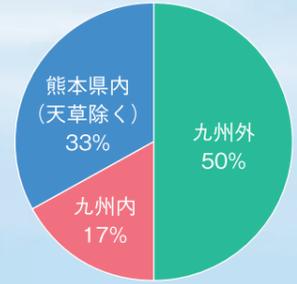
平成12年の人口は約10万3千人。平成27年には約8万3千人となり15年間で約2万人が減少しています（国勢調査より）。

このような中、自然豊かな天草市に魅力を感じて移住してくる人たちは年々増え続けており、市では平成20年に空き家バンク制度を創設し、都市部などから田舎暮らしをしたいという移住希望者の受け入れに取り組んできました。

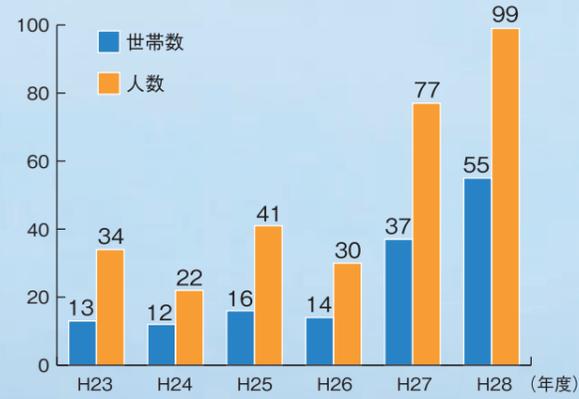
これまで同制度を活用して天草へ移住した人たちは、177世帯、363人。

「天草で見つけた自分らしさの暮らし」を続ける皆さんへ話を伺いました。

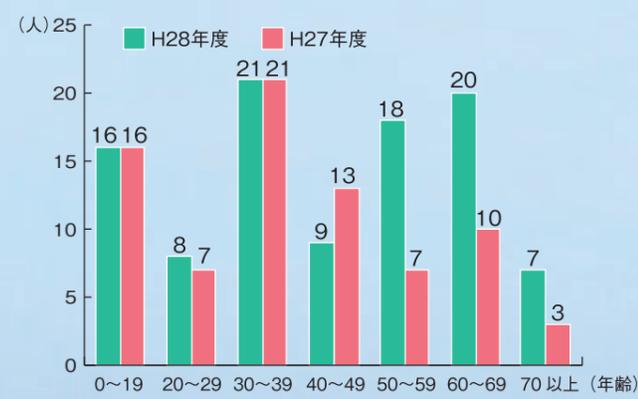
◆移住者の移住前の居住地



◆移住者(世帯、人数)の推移



◆移住者の年齢構成



▲南阿蘇村から天草町へ移住した岩下さん家族



▲埼玉県から五和町へ移住した門口さん夫婦



▲熊本市から御所浦町へ移住した豊永さん



▲熊本市から下浦町へのUターン松岡さん家族





▲山田さん(左)と柴田さん(右)



▲リフォームをつづける2人の家

「天草で自分のやりたいことをスタート」

・山田紘平さん(33歳) 滋賀県出身
・柴田未央さん(31歳) 岡山県出身(有明町へ)

「ワーキングホリデーで海外での生活経験もあります。天草に来る前は沖縄の黒糖工場で働いていました」と話す山田さん。ツアーガイドをしていた柴田さんとは沖縄で出会った。職を求めて各地を転々としていたが、ものづくりと農業がしたいと、移住先を求め九州を旅する中で1年半前に天草にたどりついた。

「自然豊かなところは言うまでもありませんが、人が開放的でとても優しいですね。地域の人が私たちのようなよそ者も受け入れてくれて、本当によくしてもらっています。ネット環境がよくなるということないんですけどね。」
以前は、毎日農業の手伝いをしていたが、自分のやりたいことを確保するため今は週3日と決めている。革で作った椅子や小物入れなどをマルシェやネットで販売。「ゆくゆくは店舗を構えたい」と話す山田さん。柴田さんは、「先週、オクラを植えたんですよ」と笑顔で教えてくれました。



▲黒沢さん夫婦と四男の晴くん



▲空き家バンクで見つけた住まい

「自分と向き合える時間が持てる」

黒沢省吾さん(45歳)、三穂さん(38歳) 家族(神奈川県から天草町へ)

「来てくれてありがとう」下田温泉の帰りに寄った飲食店のお母さんから言われた言葉が今も心に残っています。まさか、住むことにお礼を言われるなんて。

と体調面の変化も見られた。「天草は移住者へのサポートが充実していたし、地域の人や学校の先生、役所の人が親身になって対応してくれてありがたかった」と三穂さん。天草では、自分と向き合う時間が常にあるので、自分のやりたいこと、子どもたちのこと、仕事のことなどをゆっくり考えられる。「以前は思っていたよりも前に進めなかったことが、ここではやれそうな気がするんです」と話してくれました。

「移住のきっかけは、東日本大震災。安心できる食と自然に囲まれた暮らしがしたいと神奈川県から移り住んだ。あの頃は、安全な食材を求めてスーパーを巡る日々が続き、へとへとでした。天草に来てからは、長男のぜんそくが治ったり、肌荒れからも解放されたり

と三穂さん。天草では、自分と向き合う時間が常にあるので、自分のやりたいこと、子どもたちのこと、仕事のことなどをゆっくり考えられる。「以前は思っていたよりも前に進めなかったことが、ここではやれそうな気がするんです」と話してくれました。

移住者を全力でサポート

移住相談にワンストップできめ細やかに対応するため、「天草市移住・定住サポートセンター」を4月に開設しました。移住者でもある2人の移住・定住コーディネーターのアドバイスにより、多くの移住・定住につながっています。

- 場 所：天草宝島国際交流会館ポルト2階
- 開設時間：平日 午前9時から午後5時まで
- 内 容：
 - ①住まいの支援(空き家バンク、お試し住宅の紹介、相談)
 - ②就労支援(就労・起業などの情報提供)
 - ③移住後のフォロー(移住者の会の開催など)
 - ④移住・定住サイト「あまくさライフ」による情報発信



◀ポルト内にある天草市移住・定住サポートセンター

☎天草市移住・定住サポートセンター(地域政策課内) ☎276000

私たちがサポートします



▲移住・定住コーディネーター 荒毛さん(左)、安齊さん(右)

天草は、地域の人とつながり、お互いに刺激を受けながら“自分らしさ”の暮らしを創り上げていける場所です。

移住者が思い描いた生活に近づくために、不安を1つずつ解消し、楽しみを増やせるよう、相談に乗っています。

移住相談員に聞く

東京の有楽町には、都市部にいながら熊本、天草をはじめ、全国の田舎暮らし情報を得ることが出来る「ふるさと帰郷支援センター」があります。同センターで熊本県への移住相談を担当している池田真麻相談員に話を伺いました。

■増える若い世代の移住

移住相談やセミナーへの参加のためセンターを訪れた人は、昨年2万人を超えました。これは5年前と比較すると約10倍に増加しています。

センター利用者は30代が最も多く全体の28パーセントを占めており、40代以下で約7割を占めています。



▲熊本県担当の池田さん

■オーガーマイドの移住相談



▲熊本移住セミナーのようす

移住を希望する人のニーズは1つとして同じものではありません。自然豊かな熊本で暮らしたいという思いで相談に来られるのはもちろん、熊本地震後は「ふるさと」に帰って復興の応援がしたい、生まれ育った「ふるさと」を盛り上げたいとUターンを希望する相談も増えていきます。

私も実際に天草へ行き、イルカウォッチングなどを楽しみました。見て感じた天草の魅力や感動を伝えながら、熊本、天草への移住をサポートしていきます。

☎ふるさと帰郷支援センター ☎03(6273)4401



中小企業者の
売上げUPを
応援!

平成29年度新規事業

天草市中小企業者等 持続化補助金交付制度

市は販路開拓、売上拡大や、これと併せて行う生産性向上などの業務効率化に係る費用を支援する「天草市中小企業者等持続化補助金交付制度」を創設しました。

対象事業 平成30年3月末までに完了する事業。

内容 販路開拓または売上拡大につながる事業にかかる経費（店舗改修費、設備購入費、広報費など）の3分の2、最大で200万円を補助します。

申込方法 7月・9月・11月・1月の1日～15日まで。申請書と、市内商工団体の支援を受けて作成した事業計画書を、同団体に提出してください。

☎本庁(別館)・産業政策課

児童手当現況届の 提出は忘れずに!

児童手当を受給している人は、毎年6月中に「現況届」を提出する必要があります。

児童手当を引き続き受給できる要件を満たしているか確認するためのものです。

対象者には5月下旬から現況届を送付します。6月30日☎までに提出してください。

提出がないときは、6月以降の手当が受給できませんので、ご注意ください。

ボクの方は
もう出してくれただ?



☎本庁・子育て支援課(天草中央保健福祉センター内) ☎⑦5400

「臨時福祉給付金」 申請期限 8月31日(木) (当日消印有効)

申請はお済みですか? まだ6,862人分の申請書が届いていません
(5月16日現在)

支給額 1人につき1万5千円

4月中旬に申請書を送付しています。まだ申請が済んでいない人は、申請書に必要事項を記入・押印し、必要書類を添えて、同封の返信用封筒で送付または本庁・各支所に提出してください。

※申請書が届いていない人で対象と思われる人は、担当窓口までお問い合わせください。

支給対象 平成28年1月1日現在で本市に住民票があり、平成28年度分の市・県民税(均等割)が課税されていない人。ただし、市・県民税(均等割)が課税されている人の扶養親族や生活保護受給者などは対象外です。

☎本庁・健康福祉政策課/各支所

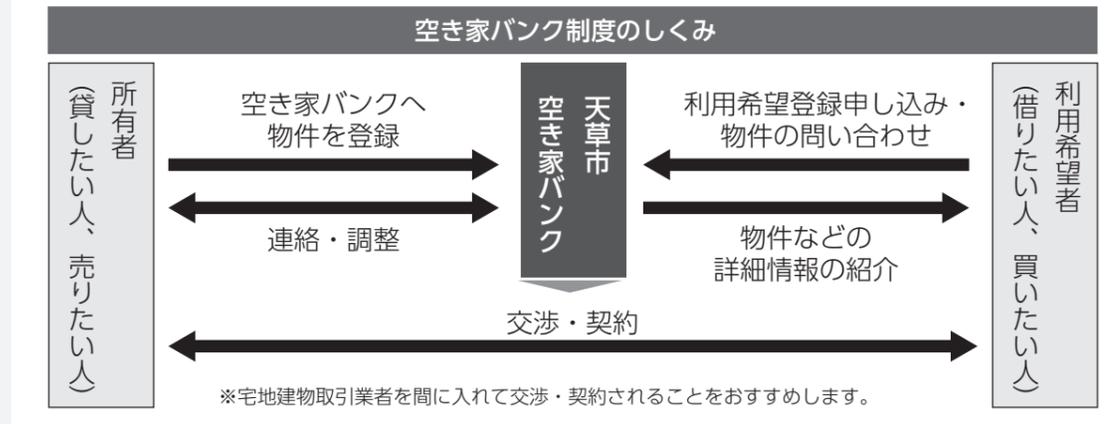
添付書類の
確認じゃ!



給付金イメージキャラクター
「カクニンジャ」

安心サポート① 空き家バンク制度

市では、“空き家”や“空き地”の情報を移住希望者へ提供するため「空き家バンク制度」を設けています。市内に空き家などをお持ちの人は空き家バンクに登録しませんか。



安心サポート② お試し滞在住宅

移住希望者を対象に一定期間の居住体験ができるお試し滞在施設があります。

- ・所在地 天草市下浦町 9623 - 9
- ・連絡先 NPO 法人グリーンライフ あまくさ
- ・電話 0969(66)9351
- ・メールアドレス green-life@mx2.amakusa.ne.jp

■短期滞在型体験施設「かねやき倶楽部」



1人 ¥2,000/泊(寝具利用は¥700/人) 部屋数: 3部屋(5人, 3人, 2人) 各部屋に冷暖房完備。風呂、トイレ、ミニキッチンが共用。利用期間: 1泊~2週間程度。

■長期滞在型体験施設「ダーチャかねやき」5棟



1棟の家賃¥32,380(月額) 保証料¥60,000(入居時) 床面積33㎡~36㎡ 間取1DK、木造平屋建て 風呂、トイレ(水洗)、キッチン、冷蔵庫、冷暖房完備。利用期間: 1カ月~5年間。

安心サポート③ 「移住支援補助金制度」

●天草市定住促進奨励金

空き家バンク制度を利用して転入し、生活の本拠地として3年以上定住する世帯に対して、奨励金を交付しています。

●空き家活用事業補助金

購入または賃借した空き家の改修などに対して、対象経費の2分の1以内を補助します(100万円を限度)。ただし御所浦地域は3分の2以内を補助(200万円を限度)。

安心サポート④ セカンドライフネットワーク

移住後の生活には人とのつながりが大切。移住者を中心に立ち上げた「天草市セカンドライフネットワーク(移住者の会)」で、移住者どうしの交流が図られています。



◀交流会のようす

【問い合わせ先】本庁・地域政策課(天草宝島国際交流会館ポルト内) ☎⑦6000